

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2020年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	「包括的性教育」に関連した大学生意識調査による性教育プログラム作成の展望
研究代表者	藤田 絵理子（和歌山大学 教育学部 特任助教 附属3校教育相談コーディネーター）
共同研究者	安達 智子（大阪教育大学 研究科 教授） 林 修（和歌山大学 教育学部 教授） 森下 順子（和歌山信愛大学 教育学部 准教授） 鶴岡 尚子（和歌山大学 教育学部附属特別支援学校 養護教諭） 岩田 智和（和歌山県庁 和歌山県立仙溪学園 心理療法担当職員）
研究成果	<p>国際的なスタンダード「包括的性教育」に照準化した性教育プログラム（「和歌山モデル」）作成を長期研究目的とする中、多職種専門家の地域連携包括支援モデルシステム（性教育ワーキンググループ）を活用し、研究Ⅰ、Ⅱを行なった。研究Ⅰは、大学生対象の「包括的性教育」に関する意識調査研究である。大学生の性意識の現状と包括的性教育が目指す、幅広い性に関連する概念との統計分析を行った。研究Ⅱでは和歌山県橋本市における中学生対象の性教育について効果測定・分析を行った。研究Ⅰより、包括的性教育のキーコンセプト6要素は、どの組み合わせでも有意な相関関係にあり、包括的性教育の具体的な目標指標として同じ方向性をもつものと解釈できた。つまり人間の性の発達について正しい知識により、性や生殖に対する望ましい知識の獲得、意識や態度、行動につながるものが明らかになった。このことから、改めて性教育に発達の視点を取り入れ、年齢・発達段階的に応じた包括的性教育の重要性を示す結果となった。また早期に性教育を行うことと、家族に関係する価値観が相関していることから、低年齢から段階的に包括的性教育を積み上げる重要性も確認した。研究Ⅱでは、橋本市「いのちを育む授業」の効果測定を行なった。授業後アンケートの自由記述分析によると【命の大切さ】、【自分や他者を大切にする】、【性に関する知識】の3カテゴリーのいずれかに約8割の生徒が回答していた。授業を通して自分自身の生い立ちを振り返り、生と性を見つめ直す体験、【性に関する正しい知識】の学習を通して【命の大切さ】や【自分や他者を大切にする】心が育まれる機会となっていることが明らかとなった。性に関連するアサーティブ権を学ぶ必要性など、今後、発展的な学習内容を追加することも課題として検討される。本研究により、国際セクシャリティー教育ガイダンスで指摘されている性教育との意識比較、性教育は包括的に多様な要素、知識を伝えることで、教育的な価値が向上すること等、性教育に関連する教育分野（キーコンセプト）が明確になった。これは和歌山モデル作成にあたり、年齢発達、理解に応じた系統的性教育整備基礎データとして有効な結果である。今後、性教育プログラムは、共生社会で多様性を理解し、人権を尊重することに関連した包括的な教育（キャリア教育分野も含む）基盤となるであろう。また自己理解・他者理解の促進を含む性意識、真の同意、思いやりなど対人関係での価値観・態度も含め、幼児期から大学生まで段階的に性教育を行うことで教育面での予防効果が期待される。研究の一環として、市民公開講演会（包括的性教育研究者、埼玉大学副学長、田代美江子氏招聘）をオンライン開催し、地域の約50名の参加者（専門家、保護者、教員など）と、包括的性教育の基本理念、教育の場で主体的に実践する意義を共有し、和歌山県における包括的性教育普及の大きな推進力となった。</p> <p>（研究代表者は、第4回女性研究者研究発表交流会（オンライン配信）にて発表「地域包括的な性教育の展望」を行ない、文部科学省 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」のご助成を心より感謝申し上げます。）</p>